掲載日:2013年12月15日，面名:特集２，記事ID:KIJ20131215_M001800100E202001

(C)新潟日報社

光と影交錯 波乱の生涯

田中角栄元首相 あす没後20年

過密と過疎 解消へ尽力

日中国交回復に手腕発揮

絶頂 一転 刑事被告人に

「利と恩」有権者をつなぐ

太郎出身の田中角栄元首相が死去してから、16日で20年になる。28歳で衆院議員に初当選し、39歳で外相、そして54歳で首相就任というスピード出世は今も語り継がれる。人情味にあふれ、旧新潟3区の有権者だけでなく、政界、官界でも多くの人を引きつけた。ただ、その政治家人生は、日中国交正常化を

田中元首相は1947年4月、2回目の挑戦で衆院初当選を果たす。同年7月早々の新潟日報朝刊は青年代議士登場 との見出しで、志を伝えた。

「新日本建設の原動力となる青年の力を十分発揮できるよう、徹底した青年組織運動を起こしたい」

終戦からまだ2年足らず。熱意に燃えた政治家人生の始まりだった。

田中氏が取り組んだのが、後の「日本列島改造論」（72年）に凝縮される都市の過密と地方の過疎の同時解消だった。二田村（旧西山町、現柏崎市）に生まれ、鉄山暮らしを経験した生い立ちから、徹底した青年組織運動を起こしたく願った。

自民党幹事長を務めていた69年、太紙の取材にこう答えている。

「日本列島全体が産業基盤とならなければならない（未熟には）関越自動道、上越新幹線が絶対に必要だ。79年までにはけりをつけたい」

時期は少遅れたものの、強い政治力を発揮し、上越新幹線は82年に新潟―大宮間が開業。関越道は78年に県内の一部、85年に全線が開通した。

強大な政治力は「要職を歴任し、決断し、放送局への影響力を高め」

実績を残すことも忘れなかった。

初入閣の郵政相時代（57、58年）は全国から要望きていたテレビ免許の許可が大きな課題だった。就任直後、本紙に「私は30代だ。これで撤退を受けてあと10年遊ぶようになってもいいと思っている」と語っていた。

ただ、悟ったようなこぶりとは裏腹に、テレビ免許の大量許可を高圧的に、放送局への影響力を高め

どの偉業を成し遂げた一方、ロッキード事件で実刑判決を受けるなど波乱に富んだものだった。元首相の足跡を新潟日報の記事を通して振り返るとともに、長女の田中真紀子氏、元首相から薫陶を受けた小沢一郎・生活の党代表、石破茂・自民党幹事長にその思い出を聞いた。

ロッキード事件で逮捕される逆風の中、衆院選に挑むため地元入りした田中角栄元首相＝1976年11月14日、長岡駅前

田中氏交渉面で成果を上げた半面、日本列島改造論 に伴う地価の高騰、石油危機への対応などに苦しんだ。同年、「全会一致」が「田中角栄研究」として報じられ、在任2年5カ月で辞任に追い込まれる。

76年に発覚したロッキード事件が追い打ちを掛けた。米航空会社ロッキード社の資金5億円を総合商社の丸紅を通じて受け取ったとして受託収賄罪で起訴された。

本紙記者は7年に始まった裁判を傍聴し、検察官の攻防を伝えた。懲役4年の有罪判決を言い渡した瞬間をこう伝えている。

「こめかみがピクリとかすかに震えた。最近肉の落ちた両肩が力なく、弱々しく見えた。いつしか、腰のあたりにそえた両こぶしを固く握りしめ、屈辱に耐えようとしてそろえた両こぶしを固く握りしめ、屈辱に耐えようとして」

刑事被告人となってからも田中氏は最大で衆参議員12人を超える自民党田中派を統率し、政界の「闇将軍」とも呼ばれた。本紙は番頭格の小沢辰男衆院議員（旧新潟1区）らに取材を重ね、鉄の結束ぶりと、首相を送り出せない不満とを伝えた。

さらに雪に苦しむ浮世村（現魚沼市）へ人口流出に悩む高柳町（現柏崎市）とルポを重ね、「利と恩」の構図を伝えた。

「利と恩」の構図は、公共事業の誘導に対し、恩義の一票を有権者が投じる関係である。

「いずれもが貧しい風土の中で懸命に生き、そこからの当選させる3区の有権者は政治意識が遅れている」と言わんばかりの東京発の一面的な見方に対する疑問もあった。

83年1月に始まった長期連載「風土と政治」は、プロローグで田中氏の力で小千谷市の集会集落にトンネルが通ることを紹介。「なぜ60戸に10億円の投資」と問い掛け、地域の思いを語った。

「現在、ロッキード社の資金の陰情だ。高度成長はまだまだ大きかった。田中氏は陰情に応え、地元は大量の票で応えた。」

「日本列島改造論」に凝縮される都市の過密と地方の過疎の同時解消だった。二田村（旧西山町、現柏崎市）に生まれ、鉄山暮らしを経験した生い立ちから、徹底した青年組織運動を起こしたく願った。

終戦からまだ2年足らず。熱意に燃えた政治家人生の始まりだった。

田中氏が取り組んだのが、後の「日本列島改造論」（72年）